

府中市議会議長

手塚としひさ 様

府中市議会市民フォーラム

代表 前川浩子

府中市議会市民フォーラム 視察報告

行政視察を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1：日時 令和6年4月10日（水）～令和6年4月12日（金）

2：視察地及び調査事項

4月10日（水）

A：六甲ウィメンズハウスの取組について

（対応：認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

代表理事 正井禮子様)

4月11日(木)

B:障がい者等の雇用を競う総合評価入札による清掃現場視察

(対応:大代ゼンテックス株式会社 業務部部长 金ヶ崎一郎様)

C:「施設なき授産」公共清掃現場を障がい者の就労支援の場へ

(対応:一般社団法人エル・チャレンジ 事務局长 丸尾亮好様)

D:西成のまちづくり「民設民営隣保館」「コミュニティディベロップメント」

(対応:にしなり隣保館スマイルゆ〜とあい 館長 寺本良弘様、株式会社ナイス

田岡秀明様)

4月12日(金)

E:「認定NPO法人 こどもの里」の取組について

(対応:認定NPO法人こどもの里 館長 荘保共子様)

3:視察者

(代表)前川浩子 (幹事長)渡辺しょう

・手塚としひさ ・にしみや幸一 ・稲津憲護 ・秋田りゅういち ・おぎの雄太郎

※体調不良のため C 及び D は秋田議員欠席

4：視察内容詳細について

A：六甲ウィメンズハウスの取組について

（対応：認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ

代表理事 正井禮子様）

認定 NPO 法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべは、DV 被害や社会的要因などで困難な状況にある女性と子どもの支援を行っています。令和 6 年に完成予定の六甲ウィメンズハウスを視察いたしました。

六甲ウィメンズハウスについて

安心安全な住まいを得ることは、精神的な安定、その後の就学・就労につながります。しかしながら、団体が支援している女性やシングルマザーの中には、保証人がいない、低収入や所持金が少ない、子連れであることを理由に、狭くて古く日当たりも悪い「ここにしか住めないのか」とため息がでるような物件を紹介されるケースも少

なくありません。女性をとりまくそのような日本の住宅状況に直面する中、代表の正井様は、平成 22 年に居住福祉を考える研究者とともに訪問したデンマークで、女性とこどものための家を見学しました。外観は古い建物ですが、内部はデザイナーズマンションのように美しく、広いリビング、プレイルームやカウンセリングルーム、キッチン、家具に至るまで、すべてがほんとうに素敵な空間でした。困難を抱える女性たちが「ここにしか住めない」ではなく、「ここに住みたい」と思える住まいを作りたい。六甲ウィメンズハウスは、その思いから始まりました。帰国してから、「夢のウィメンズハウスをつくろう！」と、阪神間の企業に向けて「休眠施設があれば、私たちに提供してもらえませんか」というチラシをいろいろなところで配布しました。そのようなことを始めてから 10 年が経ったころ、以前から食料支援を通して繋がりがあった「協同組合コープこうべ」様から、旧女子寮を使いませんかというお話がありました。その後、外国人留学生や学生も、特にコロナ禍以降は生活に困窮しているという現状があり、さまざまな背景を持つ女性たちが共に暮らす「相互扶助のコミュニティ」をつくろうと、「公益財団法人神戸学生青年センター」と共同で本事業を行うことになりました。

視察を終えての所感

「ここにしか住めない」ではなく、「ここに住みたい」と思える住まいの理念通り、神戸の街が一望できる六甲の高台にあるシェアハウス。シェアハウスといっても8割以上の部屋にバストイレが備え付けられています。1人部屋から子どもと暮らせる広めの部屋まで約40の様々な部屋、スタッフルーム、カフェテリア、パソコンルーム等を見学させていただきました。パソコンルームではDV被害等から逃れてきた女性が働くスキルを磨けるようにパソコン教室も開く予定とのことでした。家具はIKEAからの無償提供で長年NPOとして様々な活動をする中で生まれた横の繋がりやの集大成として「夢のウィメンズハウス」ができることになったのだと感じました。行政主導ではない支援を市議会議員としてどのようにサポートできるのか考える機会となりました。

B：障がい者等の雇用を競う総合評価入札による清掃現場視察

（対応：大代ゼンテックス株式会社 業務部部長 金ヶ崎一郎様）

平成15年に大阪府で初めて導入された「総合評価一般競争入札制度」（行政の福祉化として知的障がい者やホームレスなど、就職困難者の雇用が評価基準に入っており価格だけでなく公共性が評価される入札制度）において大阪府の庁舎等の総合管理を行なっている大代ゼンテックス株式会社様の取組を学ぶため、実際に清掃を行っている大阪府庁舎を視察いたしました。

大代ゼンテックス株式会社について

創業 1900 年（明治 33 年）伊勢組創設

昭和 35 年大代興業株式会社、平成 30 年 6 月 27 日大代ゼンテックス株式会社へ社

名変更

従業員数 620 名

主な事業内容

建物の総合管理（清掃、設備）、大阪府営公園の管理運営

障がい者雇用率 17.50%（令和 5 年 6 月 1 日現在）

視察を終えての所感

大阪府庁舎では 3 年ごとに更新がある中、大代ゼンテックス株式会社様が清掃業務の委託を受けて 15 年目になりました。働く障がい者の中にはこだわりが強い方も多く、丁寧に作業を行っているそうです。一方で、廊下の掃除をする際真っ直ぐに掃除をすることにこだわり、府の職員の方が立っていると避けずにぶつかるといったトラブルも当初はあったそうです。15 年の歴史の中で府の職員さんや来庁者の理解も深

まり、最近は大きなトラブルもないそうです。インクルーシブの概念が庁舎全体で根付いていることを確認し、府中市でのまちづくりに生かしていこうと感じました。

C：「施設なき授産」公共清掃現場を障がい者の就労支援の場へ

（対応：一般社団法人エル・チャレンジ 事務局長 丸尾亮好様）

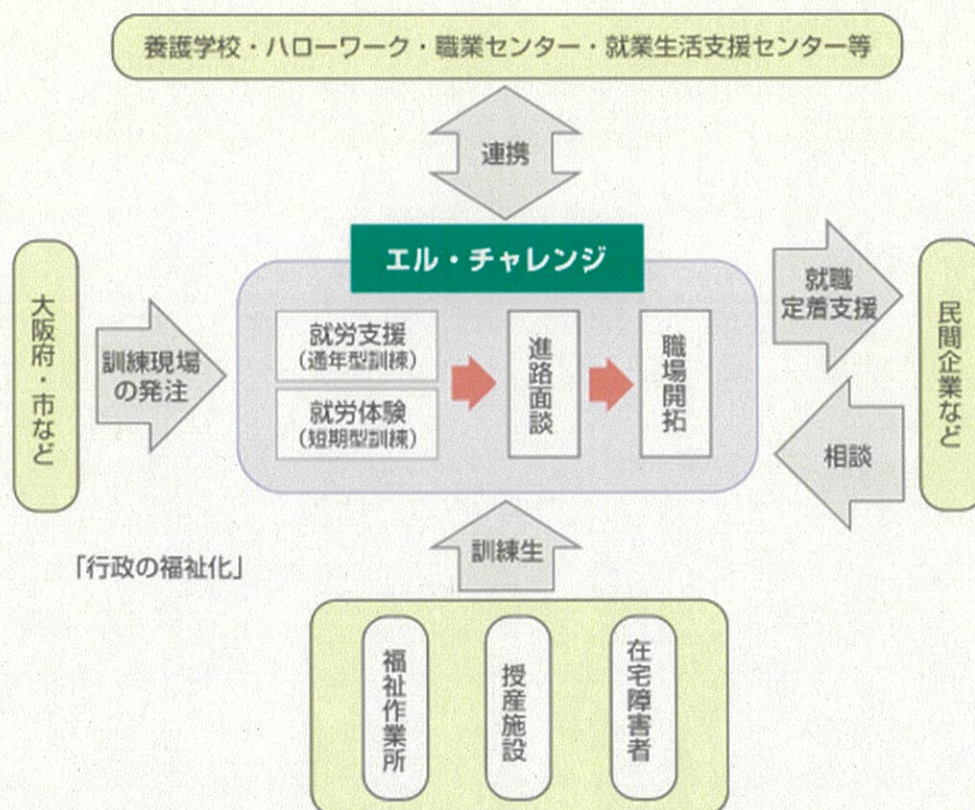
障がい者の就労支援、就労体験、進路面談、職場開拓を行なっているエル・チャレンジの取組を視察いたしました。

エル・チャレンジについて

エル・チャレンジは、平成11年6月に建物サービス事業を中心に就労支援を行う事業協同組合として設立されました。私たちは、設立当初より障がいのある人もない人も自信と誇りをもっていきいきと働ける社会を目指しています。障がい者の雇用は、徐々に広がりを見せていますが、まだまだ厳しい実情があります。特に職業的重度障がい者の雇用は遅々と進んでいないのが現状です。しかし障がいに対する理解と適切なサポートがあれば働くことができます。障がいのある人の「できること」に着目し、働きやすい環境を整備し、エンパワーメントを高めることで、社会で活躍する

ことができると確信しています。エル・チャレンジは、設立以来「行政の福祉化」を進める大阪府や大阪市などからビル等の清掃業務を受託し、仕事を通じた実践的訓練を行い、これまでに1,000人を超える訓練生を就労に導くことができました。この成果が、さらに多くの企業へと広がり、行政、企業、支援機関の強いパートナーシップのもとで、“働きたくても働くチャンスやきっかけが少ない障がい者”に光が当たることで、障がいのある人の生きがいにつながり自立を実現することが私たちの願いです。

エル・チャレンジ式就労訓練の仕組み



(出典：<http://www.i-challenge.com/guide/device.html>)

視察を終えての所感

行政、学校、民間企業、当事者の間にエル・チャレンジがあります。Bで視察をした大代ゼンテックス株式会社にもエル・チャレンジの紹介者が多数在籍し、働かれています。エル・チャレンジでは雇用して終わりではなく、「なかまの会えーる」として障がいがある方が職場環境で悩んだことを共有する機会や、余暇での繋がりを支える取組を行なっています。障がいのある方が成人した後も社会の一員であるために必要なことを学び、府中市での支援体制に新しい視点を加える必要性を感じました。

D：西成のまちづくり「民設民営隣保館」「コミュニティディベロップメント」

(対応：にしなり隣保館スマイルゆ〜とあい 館長 寺本良弘様、株式会社ナイス 田岡秀明様)

高齢化率が38.3%、生活保護率が23.5%、空き家率が23.8%である大阪府西成区において、部落差別と向き合い、差別しない・させない地域愛溢れる人づくり、魅力ある西成区のまちづくりを行っているにしなり隣保館スマイルゆ〜とあい、株式会社ナイスの取組を視察いたしました。

にしなり隣保館スマイルゆ〜とあいについて

同和地区およびその周辺地域の住民を含めた地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発のため、住民交流の拠点となる地域に密着した福祉センター（コミュニティセンター）として、生活上の各種相談事業をはじめ社会福祉等に関する総合的な事業及び国民的課題として人権・同和問題に対する理解を深めるための活動を行い、もって地域住民の生活の社会的、経済的、文化的改善向上を図るとともに、人権・同和問題の速やかな解決に資することを目的とする施設です。

株式会社ナイスについて

貧困、孤立、差別、少子高齢化、老住宅、空き家、労働、教育・・・西成は、簡単には解決できない、多くの課題を抱えるまちです。一方で、住民が主体となり、社会問題を解決するための様々な活動が積み重ねられた歴史を持つまちでもあります。社会的差別の克服や多文化との共生、公民の協働など、人間の尊厳を求める進取の機運が育まれてきました。そうした背景の中で、弊社は地域の社会運動の中から誕生し、地域（社会）のニーズとできることを掛け合わせ、西成発のソーシャル・エンタープライズ（社会的企業）を謳い、「まちづくり」と「就労支援」を大きな柱として事業を展開

開しています。このまちの課題は、これから訪れる未来の日本全体の課題でもあります。ここ西成は、社会課題の最前線であり、変化の最前線なのです。時には、一社だけでは立ちすくんでしまいそうな社会課題にも、地域の中のみならず全国の社会的企業と繋がり、情報を共有、連携を図りながら「やってあげる・やってもらう」ではなく「やっていこう」の精神で、解決策を模索し続けています。私たちは「西成から、はじめよう」をスローガンに、まちづくり・人づくり・仕事づくりを通し、西成の課題、社会の課題解決に取り組みます。差別や偏見のない、また、包摂的で多様性のある、ナイスな社会を目指しています。

視察を終えての所感

にしなり隣保館スマイルゆ〜とあいでの説明を受けた後、実際に西成区を寺本様と田岡様と歩きました。歴史ある精肉工場は精肉の過程で排気口から出る匂いが問題となっていたのですが、工場をもつ会社へ西成区のために協力して欲しいと株式会社ナイスから願いをし、安くない設備投資を行い排気口に高精度のフィルターを設置したそうです。株式会社ナイスが西成区で信頼されていることを感じ、地域の繋がりがまちの魅力を高めることを改めて感じました。

E:「認定 NPO 法人 こどもの里」の取組について

(対応: 認定 NPO 法人こどもの里 館長 荘保共子様)

西成区においてこどもたちの「遊び」と「学び」と「生活」の場を提供している認定 NPO 法人こどもの里の取組を視察いたしました。

認定 NPO 法人こどもの里事業内容

大阪市留守家庭児童対策事業 (学童保育)

保護者に代わり留守家庭児童の健全な育成を図るための事業。放課後の時間帯に、こどもといっしょに宿題をしたり、あそんだり、見守ります。週末や長期休みには遠足やキャンプに行きます。

児童自立生活援助事業 (自立援助ホーム)

義務教育(中学校)卒業後、就職や修学する児童等 (15 歳からおおむね 20 歳まで) に対し、自立を図るための相談その他の日常生活上の援助及び生活指導を行う事業。

視察を終えての所感

認定 NPO 法人こどもの里大阪市留守家庭児童対策事業では乳幼児から 18 歳まで、

児童自立生活援助事業では 15 歳から 20 歳の若者を対象に支援を行なっています。館長の荘保様からは児童相談所の職員が 2 年で変わってしまう縦割り行政の弊害についてもお話をいただきました。困難を抱える家庭の負の連鎖を断ち切る取組を行政が手の届かないところで行なっていることに脱帽する一方で、行政とはより隅々まで配慮の届く施策を届けなければならないと感じました。

視察写真（A から E の順）



